

E-mail : freespace@tamariba.org

1991年川崎市高津区で、学校や家庭、地域に居場所を見出せない子ども・若者たちの居場所として活動をスタート。2003年にNPO法人の認証を受け、同年7月にオープンした「川崎市子ども夢パーク」内の不登校児童・生徒のための居場所「フリースペースえん」の運営を市より委託される。指定管理者制度の導入により、2006年4月から川崎市生涯学習財団と共同で夢パーク全体(フリースペースえんを含む)の管理・運営を行なっている。さまざまな活動を通じ、学校外の多様な学びと育ち、生き方を支援している。

たまりバラエティ



みんなで作る

ゆめ横丁

11月5日、夢パークで「こどもゆめ横丁」が行われました。今年は29店舗、114人の子どもたちが出店し、当日は2000人が来場しました。

えんの子どもたちも、アクセサリ屋さんや、射的屋、スーパ屋さんなどを出店し、どの店も工夫を凝らした素敵なお店でした☆他にも、お店は出さないけれど建設で力を貸してくれた子、アートの才能を爆発させ看板書きをしてくれた子など、たくさんの子どもたちのパワーのすごさをとても感じた今年のゆめ横丁。出店する子も、しない子も、みんなで作りあげたお祭りでした。ここぞ！というときに力を発揮できるえんのメンバーってやっぱりステキ！

次は2月のフェスティバル。この勢いで、このまま盛り上がっていきましょい！（マサ）

満員御礼!?クリスマス会

今年のクリスマス会はなんと150名の参加者！えんの部屋の中は例年以上の大にぎわいでした。懐かしい顔にもたくさん出会え、あったかい夜になりました。クリスマス会の出し物は、ひと月前から立ち上がった企画部が考えたもので、マイクが回ってきたら必ず歌うクリスマスソングリレー、上の句・中の句・下の句を別々の人が考える五七五の俳句ゲームなどで盛り上がり、西やんの顔の長さがクイズの問題になった○×クイズは大爆笑でした。ビンゴゲームでは最後のひとりまでクリスマスプレゼントがもらえ、笑顔があふれました。遠くにいる大切な人たちから届いたスモークターキーやシュトーレン、果物やお菓子がテーブルに並び、たくさんの



人たちとつながっていることを感じました。

お料理の差し入れやビンゴ景品をくださったみなさま、ご協力くださったみなさま、ありがとうございました。

（たかこ）

上野で触れるアートと文化

12月1日、『有北さんとアート講座』の番外編で上野に行きました。今回は上野公園内の美術館・博物館のうち、「北斎とジャポニズム」「怖い絵展」「ゴッホ展」「古代アンデス文明展」「国立科学博物館」から行きたい所を選択！もちろん何ヵ所行ってもOK！どの企画も魅力的だけど、中南米の考古学が大好きな私は、やはり「古代アンデス文明展」！！

南米の9つの文明・文化が取り上げられていた文明展では、展示物を見て「これは何？本物？」とか、バンパイプ（アンタラ）に「えんで見たことある」と声が上がったり、ミイラに釘付けになったり…1つ1つに興味を抱いて観ている様子は、一緒に古代文明の面白さに出会い、魅力を共有してい



る感じがして嬉しい♪帰りにお互い見てきた所を報告し合ったのも楽しかった。これからもみんなと色々な所に出かけ、色々なものに出会い、色々な経験をしていきたいな。（おみつ）

戦争を考える!登戸研究所ツアー

11月17日（金）に「登戸研究所資料館」へ行ってきました。ここは、旧日本陸軍が生物兵器や風船爆弾の研究、偽札づくりなどをしていて、終戦と共にその存在も秘密裏にされてきた戦争遺跡です。実際に使われていた建物が、今は明治大学生田キャンパス内で資料館となっています。

その隠された歴史を解明していった第1人者である渡辺賢二さんを講師に迎え、まずはキャンパス内に点在する研究所時代からの動物慰霊碑、消火栓、弾薬庫、弥心神社などをみんなで散策し、そのあと資料館を見学しました。

資料館では、渡辺さんに展示を解説してもらっただけでなく、堅く口を閉ざしていた元所員の心の扉を少しずつ開いたのは解明に取り組んでいた高校生たちだったことや、その際に



「大人には話したくなかったが、君たちだから話したんだ」などの元所員の言葉も紹介してもらいました。（ダイスケ）

指定管理施設

『やってみたい』がいっぱいある場所です

川崎市子ども夢パーク

川崎市高津区下作延5-30-1

TEL 044-811-2001 FAX 044-850-2059

<http://www.yumepark.net>



ブリュッケだより

～物づくりの現場で～



12月、横須賀市久里浜駅近くでうどん屋を営む「うどんカフェうせい」の前田さん親子にお越しいただき、手打ちうどん講座を開催しました。最初に作業の説明を受け、小麦粉 200・250・500gの中から自分の練れそうな分量を選びました。分量に合わせた水と塩を混ぜ合わせて練り始めると、あっという間にみんな汗だくで声も出ない状況に。500gに挑戦したメンバーからは「先が見えない…」の声が。しかし徐々に小麦粉がまとまり始めると、安心感や愛着が湧いてきます。伸ばす作業の時には優しい手つきに。最後は「うせい」特製のうどん切り機で威勢よく切って完成。大鍋で20～30分ゆで上げた、太さいろいろのうどんが、またいい味を出していました。



お店でうどん打ちを担当している息子のしずか君は、毎日500gの小麦粉を8～10セットを打っています。「前田福祉社労士事務所」代表で父親の豊さんは、『いつか「うせい」を養護学校のしずかのお友達たちも働ける場にしていきたい』と話されていて、その眼差しに力を感じました。素敵な出会い・体験の時間となりました。(さとう)



HAPPY えんブリディ

★えんめしを食べた昼下がり、なにやらえんの中に人だかりが…。「チケットの値段どうする?」「ポスター書こう」「Tシャツも作っちゃおう!」などの声が響きわたります。そう、これぞ『たまりばフェスティバルプロジェクトX』!! 今年は例年以上の盛り上がりで頑張っています。まだまだメンバーも募集中なので、興味がある人は声をかけてね。(マサ)

★市内でお花屋さんを開いている遠藤ミホさんが、毎年クリスマスの時期にリースづくりを教えに来てくれています。木のツルを丸く編んだリース台に、モミヤヒイラギの葉、松ぼっくりや赤い木の実などを思い思いに付けていき、ステキなリースの出来上がり。アバンギャルドなリースや似顔絵リースには、みんな大爆笑でした。(たかこ)

★少し前、えんにハリーポッター杖ブームが到来。子どもたちは木工の達人フクミネさんと一緒に木でオリジナルの杖を作り、手芸の達人コハルにつえ袋を依頼。コハルはえんにある布とミシンを使ってあっという間に可愛い袋を完成。そしてそれを嬉しそうに首からぶら下げたハリーポッターたちが誕生! ここにはいろんな達人がいるよー♪ (あかり)



友人の松浦幸子さんが主宰する「クッキングハウス」が30周年を迎え、先日調布で祝う会が盛大に開かれた。人生の途中で心の病を発症した人たちが、病院ではなく、街の中で当たり前に人間らしく生きていきたいと、ワンルームからスタートした小さな居場所。「おいしいね」から、元気になる場」を合言葉に、自然派家庭料理のレストランやクッキーをつくったり、お茶も飲めるティールームを運営。さらに、クッキングスターと名付けられた3つ目の居場所では、20年前からひきこもり傾向の若者たちと夕食を食べながら語り合う、自立生活支援・就労支援の居場所も開いてきた。

30年に及ぶクッキングハウスの歴史を、精神保健をめぐる社会状況の移り変わりとともに「ソシオドラマ」の形に仕立て上げ、メンバーとともにつくった12のオリジナル曲をみんなで歌いあげた。詩に込められた思いが胸に響いてきて、何度も目頭が熱くなった。みんなで手づくりのご飯と一緒に囲むことで元気になる場。弱さをだしてもいい。失敗してもいい。安心して気持ちが語れるつながりの中から、豊かに自分を取り戻していく。

クッキングハウスを語る言葉が、不思議なほどたまりばを語る言葉と重なる。たまりばが暮らしを取り戻そうと、毎日の昼食づくりを活動の真ん中においてきたきっかけはここにあったんだと、原点が思い出された。30年前に小さなワンルームマンションで作ってくれたご飯のおいしさが忘れられず、松浦さんに「胃袋をつかまれた」私が、仲間とともに川崎の地でたまりばを開き続けてきた。そういうことだったんだ。振り返ってみて、「おいしいね」が持っている力の大きさに改めて気づかされる。

気がつけば私たちの場合、障がいの手帳を持っている人や何らかの診断名がついている人の割合が半数を超えるようになってきた。発達障がいと診断されている子、知的な障がいがある子、精神科に通院している人、食事の介助が必要な車いすの子も2人になった。

「障がいがある子も来ていいよ」という言い方はスタンスが少しズレている。様々な障がいがある人たちが、共にそこにいること。そして食卓と一緒に囲むこと。そのこと自体が何よりも豊かなことなのだという「あたりまえ」の文化を、クッキングハウスと共にこれからも発信し続けていきたいと思う。(西野博之)



川崎若者就労自立支援センター
ブリュッケ

「Brücke」は、ドイツ語で「かけ橋」。

居場所で人と人がつながり、居場所から地域へ、地域から就労へ、様々なつながりが生まれていく。

そんな人から人への「かけ橋」になっていけたら…。

*ブリュッケでは、川崎市内にある福祉事務所のケースワーカーと連携し、15～29歳までの若者たちの居場所・就労支援を行っています。

インフォメーション

★詳しくは事務局まで★

祭りだ！ワッショイ！！

たまりばフェスティバル 2017

2月25日(日)14:00～17:30(13:30 開場)

会場：川崎市男女共同参画センター すくらむ 21

(東急田園都市線「溝の口」、JR南武線「武蔵溝ノ口」駅徒歩約10分)

「えん」で行っている講座や自主企画など、一年間を通して行ってきた活動の発表の場です。楽器演奏、創作劇、歌、ダンス、映像上映、展示など盛りだくさん♪子どもたちが立ち上げた、「プロジェクト X(フェスティバル実行委員会)」が中心となって企画・運営しています。一年分の「えん」が凝縮された一日です！

チケット 子ども 100 円、 中学生から 500 円、

おとな 1,300 円

協力券 1,000 円(当日+300 円で入場可能)

※チケットのお求めは「えん」又はお電話で。当日券もあります。

夢パーク 初夢！新春イベント

1月14日(日) 11:00～15:00(17:00 閉所)

※15日(月)「えん」は新春イベントの代休です
もちつき、どんど焼き、書初めなどのお正月行事や、ベーゴマ、こま回し・はねつき、けん玉などの昔遊びをみんなで楽しもう♪

染めのおっちゃんと 野染めをしよう

3月5日(月) 11:00～

京都の染色家、斎藤洋さんと一緒に 18mの布をみんなで思い思いに染めよう！使う染料は自然のもの。夢パーク内に生えているミントやヤマモモの木などから作った色もあるよ。

フリースペースって、どんなところ？

「不登校」「ひきこもり」の子ども・若者の居場所づくりについて、画像等をまじえて「夢パーク・フリースペースえん」の活動紹介と質疑応答など意見交換を行ないます。

第5回 2月17日(土) 10:00～12:00

対象 フリースペース(居場所)の活動や、不登校・ひきこもりについて関心のある方
会場 川崎市子ども夢パーク内「多目的室」
資料代 500円 <要予約・先着20人まで>
申込み 1月10日 10:30から受付開始

ご支援いただきありがとうございます (2017.10.1～2017.12.18)

NPO 法人フリースペースたまりばに、応援会員として会費を入金してくださった方、カンパをいただいた方のお名前です。
(敬称略・順不同。希望されない方は掲載しておりません。
なお、掲載もれなどの不備がございましたら、事務局までご連絡ください。)

青木和雄、遠山和輝・則子・雄公、清水善幸、石川富士子、奥出夏海、佐藤陽子・創楽、田老伸匡、長谷川靖子、竹内昭・太郎、中村公一、石橋充行・大吉、奥水典久、宮崎芳正、新田学、柏倉敏和、後藤みしお、東靖士、矢崎美穂子、宇井新・のどか、藤井景子、村岡美和子、梅田美穂、平林夏子、岡安花子、渥美賢多郎、佐藤研二・真理、山本将也、廣渡道明・明子、佐々木ともの、栗原崇、山下芳織、新居千文、赤野彩希、瀧沢誠、石戸博也、門田啓子、岡本宏次、木村陶子、毛井海渡、毛井大智、松山朋子、畑本和彦、山田裕子、田鎖美恵子、小黑信枝、山下時生、井畑立明、萬谷茂之、玉寄勝治、広岡真生、住政二郎、平島春美、福本陽子、飯田憲司、三輪春樹・美奈子、小浜華子、マリク・サドルディン、木内英紀、山田恵理子、増井幸子、齊藤こえ子、原恭子、北村年子、藤田友子、繁田卓也、櫻井庸平、本多あつこ、町田恵美、友兼清治・悦子、国際ソロプチミスト川崎-百合、サポートステーションさいとう、川崎ひかり法律事務所、カステラ、座間市主任児童委員会、保護者有志(雑居まつりバザー売上げ)

応援会員募集中!!

フリースペースたまりばの活動のためにあなたのお力が必要です！

振込先→郵便振替口座 002002-57382 特定非営利活動法人 フリースペースたまりば

※郵便局の自分の口座からなら、手数料が無料で振り込めます。

※他金融機関からも入金できるようになりました。口座番号は↓(支店名を「セ」で検索してください) ※

〇二九(ゼロニキュウ)店 (029) 当座 0057382

詳しくは事務局まで TEL 044-833-7562 (光富)



オーガニックカフェ

TEL/FAX 044-813-5248

南武線久地駅下車徒歩2分
川崎市多摩区宿河原6-26-24 フジビル1F

